中部大学市民公開講座
第 7 回 睡眠・認知症予防シンポジウム

日時：2020 年 3 月 8 日 9 時 20 分-12 時 0 分

場所：中部大学名古屋キャンパス 6 階大ホール

ＪＲ鶴舞駅　名大病院口隣接

プログラム

総合司会　山田 礼子 先生（中部大学）

Ⅰ 9:20-　「はじめに」　**石原 修 中部大学学長**

Ⅱ 9:25-9:55　座長: 北村 拓朗 先生（産業医科大学）

教育講演　「ポジティブ睡眠で認知症予防」
宮崎総一郎　先生（中部大学）

Ⅲ 10:00-10:50　座長: 太田 龍朗 先生（名古屋第一赤十字病院）

教育講演　「時間学のすすめーなぜ規則正しい生活リズムが好ましいのか」
明石　真　先生（山口大学時間研究所）

Ⅳ 11:00-12:00　座長: 古川 鋼一 先生（中部大学）

特別講演　「楽しい生物学―ウズラ、ニワトリ、メダカの研究」
吉村　崇　先生（名古屋大学）

お申し込みはメール（miyazaki@jses.me）または
ファックス（052-261-9641）にてお願いします。

明石　真　先生

山口大学時間学研究所教授。1973 年生まれ、旭川出身。京都大学農学部、京都大学大学院理学研究科。日本学術振興会特別研究員を経て、佐賀大学循環器内科学教員。2009 年 10 月より現職。2010 年、日本時間生物学会学術奨励賞受賞。2011 年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

専門分野は「時間生物学」で、生物の体内時計や代謝変化など、生体の持つリズムについての研究を行っている。頭髪やひげなどの根元に付着する細胞を採取することで、簡便に人間の体内時計を測定する方法を開発。

「毎日同じような時間に眠くなったり目が覚めたりするのは何故でしょうか。それは、体に約 24 時間を刻む自律的な時計が備わっているからです。体内時計は睡眠、内分泌や代謝活性等生物活動の約 24 時間周期のリズムをつくりだし、地球環境にうまく適応するように調整しています。ところが、現代の生活環境は体内時計の機能を脅かすものであり、多くの疾患のリスクになっています。」

吉村　崇　先生

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所、大学院生命農学研究科教授、基礎生物学研究所客員教授。1970 年生まれ、滋賀県甲賀市出身。

自然界の動物は、冬眠や渡り、毛の生え変わりなど、季節の変化にみごとに対応した正確な生体リズムを刻んでいます。1920 年以来、さまざまな動植物の日長の変化に応じた生理機能の変化（光周性）の研究が進むようになりました。しかし光周性のメカニズムが遺伝子レベルで明らかにされたのはごく最近のことです。とくに私たちの研究室がウズラやマウスを研究モデルとして光周性を制御する遺伝子を世界で初めて特定してからは、動物が視覚を司る光受容器とは別の新規な光受容器で光を感じ取り脳に春を告げるホルモン合成を指示していることが明らかになってきました。光周性を制御する遺伝子がわかったので、日長の違いをどう認識しているのかを遺伝子レベルで明らかにする研究を進めています。

ニワトリ、ウズラは牛や豚に比べて少ない餌で短期間に成長し、宗教的な禁忌もないので、私たちの研究成果は世界の食糧問題の解決に貢献できます。さらに季節性感情障害という人の病気にも貢献することが期待され、その応用の世界が広がりつつあります。